

令和元年度 大山町決算の状況

令和元年度の一般会計、14の特別会計、水道事業会計、4つの財産区特別会計の決算の状況をお知らせいたします。

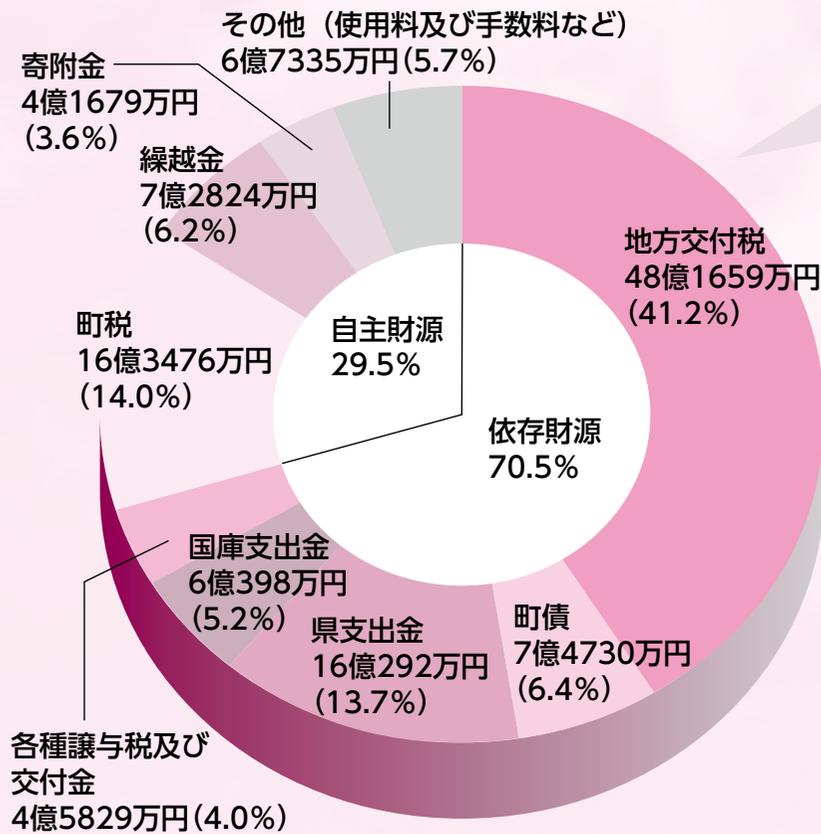
一般会計の決算額は、歳入が116億8222万円、歳出が112億6539万円となり、令和2年度への繰越事業の財源を差し引いた実質収支は3億5745万円の黒字となりました。

令和元年度は、ふるさと納税の寄附受付サポートを複数設置するなど推進を図った結果、過去最高額のふるさと応援寄附金を受け取ることが成功しました。

今後はその財源を元手にさまざまな魅力ある施策を推進していきます。

一般会計歳入

歳入合計 **117億円**



■歳入の説明

歳入決算額は116億8222万円で、前年度と比べて3.1%の増となっています。畜産・酪農収益強化整備等特別対策事業を実施したことによる県支出金の増加が主な要因となっています。

歳入全体に対する町税など自主財源の割合は、昨年度から1.8ポイント増え、29.5%となりました。これは、ふるさと応援寄附金が昨年度と比べ1億4721万円、55.6ポイント増の4億1214万円となったことが主な要因となっています (H30の災害分を除く)。

今後もふるさと応援寄附金の獲得を進め、魅力ある施策の財源として活用していきます。

土木費

道路・住宅整備などに要する経費

7億1603万円

衛生費

ごみ、し尿、病気予防などに要する経費

6億6695万円

商工費

商工業振興、観光振興などに要する経費

2億1283万円

消防費

消防・防災対策に要する経費

3億6493万円

その他

災害復旧費、議会運営などに要する経費

2億2167万円